

【水の神様への思いを受け継いで】

宮崎県 高千穂町立高千穂中学校 三年 黒木 陽斗

我が家から歩いて数分のところにその神社はある。曲がりくねった木やツルに囲まれた神秘的な雰囲気のある境内には、威厳のある拝殿と、隣には御神水の湧き出る井戸がある。冷たくておいしいこの水を求めて、県外から訪れる人も増えている。ここが龍神様を祀る神社、『八大龍王水神社』だ。

僕が生まれ育った高千穂には、神話にまつわる場所がたくさんある。その中には水と関係の深い場所もある。例えば、前述した八大龍王水神社や、真名井の滝や特徴的な岩壁で有名な高千穂峽などだ。高千穂峽は、火山の噴火によって流れ込み固まった溶岩を、川の水が浸食してできたと言われている。昔から人々は、このような自然の大きな力を神の仕業として崇めてきた。水の力もその一つだ。

こうして、昔から大切にされてきた水だが、最近の水のありがたさが薄れてきているのではないかと思う。蛇口をひねればいつでも水は出てくるし、あちらこちらにある自販機では、ジュースやお茶、飲料水を購入することができる。しかし、一方で水質汚濁などの問題も生まれた。高千穂峽でも生活排水の垂れ流しによる問題があったと聞いたことがある。異臭がしたり水が濁っていたりしたそうだ。高千穂峽の中でも有名な真名井の滝の水は、『玉垂の滝』^{おのころ}という滝から来ており、これは高千穂

町の水道の水源でもある。生活排水によって汚れていた高千穂峽も、今ではきれいな水が流れ、多くの観光客で賑わっている。これは、下水道の整備によるものである。下水道の仕組みについては小学校のときに学んだ。たくさん行程を経ていることを知り、あらためて汚水処理することの大変さを持った。

このように、きれいな水のために大きな役割を担っている下水道だが、全ての地域に整備されているわけではない。僕の暮らす岩戸地区も下水道がない地区だ。では、汚れた水をそのまま流しているのか、気になって母に聞いてみたところ、「古い家にはないかもしれんけど、この辺は浄化槽がある家が多いですよ。」

と言われた。浄化槽とは、各家庭に設置される小さな下水処理場のようなものだそうだ。これによって水をきれいにしてから川に流しているという。ただ、注意しなければならないこともあるようだ。取り除いた汚れは溜まっていくので、定期的に掃除、点検をする必要がある。また、微生物の力も利用しているのだが、洗剤などを多く使用すると、その力を抑制してしまうことがあるそうだ。このような注意点は下水道でも言えることだ。どの家庭でも、「油をそのまま流さない」「残飯などが流れないように排水口にネットをつける」「洗剤やシャンプー、石けんなどを多く使い過ぎない」など、下水処理場や浄化槽の負担を減らす工夫はできるはずだ。

自然は時に人にとって恐ろしいものとなる。先日の熊本地震でも、そのことを思い知らされた。毎日のように訪れる余震に夜も寝られなかった。熊本県では断水が続いた地区も多かったようだ。熊本に隣接した、ここ高千穂でも一時断水する地域があった。自然災害の多い日本では、いつ、どこで断水してもおかしくない。

昔は神として崇めていた水を、人間は汚してしまった。しかし、きれいにするために様々な工夫をしてきたのも人間だ。始めに書いた八大龍王水神社の龍神は蛇の姿をしているそうだ。僕らが使う蛇口という言葉には、そういった神の姿が重ね合わせられているのかもしれない。この先、その蛇口から水が出てこなくなることも考えられる。僕たちはそのことを意識しながら水を大切にしていくなきゃならないと思う。水の神様の怒りに触れないためにも。